

# 昌賢だより

第14号 (2007. 12. 1)  
発行：群馬社会福祉大学図書館  
群馬社会福祉大学学生図書委員会

## — 巻頭言 —



# 追体験と想像力

事務長 細谷昭彦

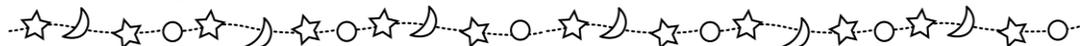
文学少年とは無縁の少年期を過ごした私が、高校の国語教師として群馬に赴任したのはもう25年前のことだ。油まみれで働く定時制の生徒に文学作品を理解させるのは駆け出し教師の私には至難の業だった。時折私を教職に誘った恩師の元を訪れては慨嘆する私に、恩師は優しく諭した。「実体験だけで人は想像力を持ち得ない。読書を通して得た疑似体験＝追体験こそが人に想像力を与え成長させる糧となる。」

私は俄然発憤し、図書館に入り浸り年間500冊もの本を手当たり次第読み漁り、読後の感想を日記に記した。15年遅れの乱読期を迎えた私は、書物という無限の師を得て本当の意味でこの時初めて国語教師としての語彙力・読解力を獲得したように感じた。そして、教科書に掲載された作品を自分の感性で読み、結果生徒に教えたいと心から願った作品だけを教えようと決めた。

新米教師の私に労働に疲れ睡魔と格闘しながら学ぶ生徒を説得・理解させる力量は未だなかったが、掟破りの「名作の後日譚を皆で考える」という課題を与えたことで生徒達の思わぬ才能が目覚めることになった。その作品こそが芥川龍之介『羅生門』であり、「下人の行方は誰も知らない。」の後を夢中で考える生徒達を目の当たりにして、教師という職業の難しさとやり甲斐を同時に悟った。知的好奇心は誰にもある。そのきっかけを与えるのが教師であり、知的欲求を満たすのは学ぶ者自身である。現在は活字だけでなく、様々なメディアが知的好奇心を満たす術となった。それでも私は原点である活字＝書籍にこだわろうと思う。教える立場を離れた今となっても、私にとって図書館は知の宝庫であり、心を癒し元気をもらえる想像力の源であると思っている。



# — 先生からのおすすめ本 —

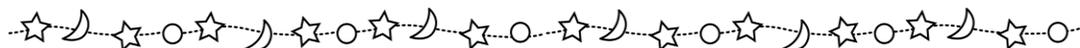
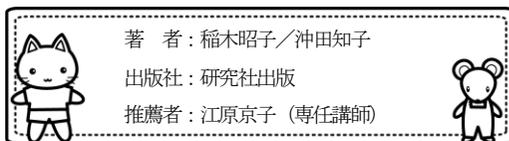


## 『アリスの英語 — 不思議の国のことば学』

私たちが日常の世界から解放し、夢の世界へと誘ってくれる『不思議の国のアリス』の物語は、世界中の幼い子どもから大人まで親しまれている。著者であるルイス・キャロルは、オックスフォード大学の数学者であり論理学者である。厳格なクリスチャンの家庭に育ったキャロルには吃音があり、成人女性と話をするのが苦手だったといわれている。アリスの物語は、キャロルがアリスとその姉妹に即興的に話した内容が元になっている。アリスは実在の人物である。

『不思議の国のアリス』が大人をも引きつけるのはなぜだろうか。いかつい学者とは裏腹なキャロルのお茶目な感覚と空想的な世界を作り出す感性が

多くの読者を魅了しているのかもしれない。アリスが大きくなったり小さくなったりする場面はキャロルの数学的な感性がはたらいっている。何よりもアリスと他の登場人物との会話が楽しい。機知に飛んだ発想とことばの遊びをうまく作り出す論理学者としての一面が伺える。本書の題名は、『アリスの英語』であるが、日本語の解説付きであり、まだアリスを読んでいない人にも充分楽しめる内容となっている。

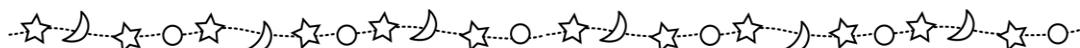
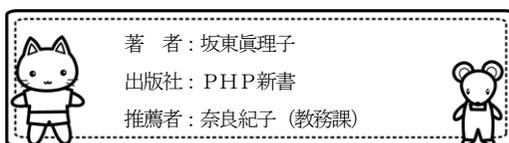


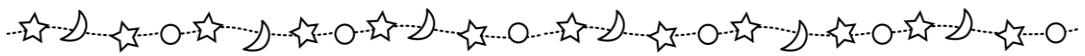
## 『女性の品格』

この本は、今年の「母の日」に長男からプレゼントされました。

著書名から単に「品格」という流行語を使った本と思っていた私には嬉しい誤算でした。「礼状をこまめに書く」から始まり、「乱暴な言葉を使わない」といった話し方や、「無料のものをもらわない」といった暮らし方。また「役不足をいやがらない」といった仕事の心構え、さらには、「恋はすぐに打ち明けない」といった生き方まで、その66の項目にわたって書かれています。中には当たり前のことと思われることや、なんとなくそう思っていたということも書かれています。けれどこの本は、キャリア

として第一線で活躍し、女性として初の総領事として世界を見てこられ、現在、女子大で後進の指導に当たられている、著者の暖かいメッセージのように思いました。「女性」に限らず、毎日少しでもランクアップして行きたいと願う男子学生の皆さんにも読んでもらいたい本です。そしてこの本の内容を、自分なりに取捨選択をしながら「品格」のある人を目指してもらいたいと思います。





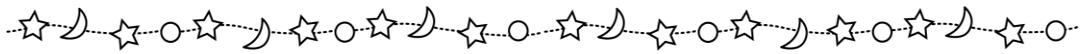
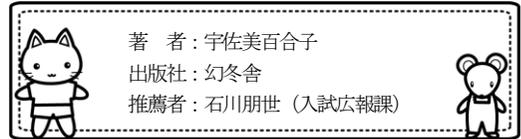
## 『もう、背伸びなんてすることないよ』

以前私は自分に自信が持てず、とても悩んだ時期がありました。本当に落ち込んで、本当に辛くて…そんな時、ふと立ち寄った本屋さんでこの本を見つけました。『もう、背伸びなんてすることないよ』それは私がずっと待っていた言葉でした。この本には作者自身の経験から生み出された短い言葉がたくさん並べられています。経験して感じたことだからこそ、心に重く響きます。

私の1番のお気に入りには『何があってもあなたは大丈夫』。なあんだ、普通の言葉じゃん、って思った方もいるでしょう。確かに大丈夫という言葉はありふれた言葉で頻繁に使われる言葉ですから、それほどのありがたみは無いのかもしれませんが。ただ当時の私にはその言葉をかけてくれる人がいなかった

たのです。と言うよりも、何度も言葉をかけてくれる人がいたのにその存在を素直に受け入れることができずにいました。しかしこの本を読み進めるうちにうまく言葉にはできないのですが、心の奥が暖かくなるような不思議な感覚になり、素直に受け入れようと思えるようになったのです。

心が疲れたな…と思った時、ぜひ読んでみてください。きっとあなたを助けてくれる、お気に入りの言葉が見つかると思いますよ。



## 『わかってほしい』

真っ赤な表紙。一面の赤。  
赤が表すのはなに？  
憎しみ？ 痛み？ 悲しさ？ 恨み？  
どれも 違う。  
ただ 愛してほしいと願う筆者の心の叫び。

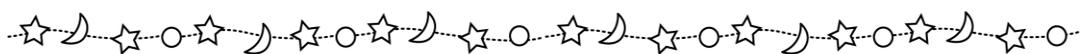
かわいらしい顔のくまのぬいぐるみ。  
あちこちが破け、中綿がはみだし、手足がもげ・・・  
ページをめくるとびこぼろぼろになっていく。

「なぜ？」「また？」白抜きの悲しいことば  
「しんでびびらせるか」黒抜きの憎しみのことば  
重なり合うふたつのことば

これは虐待される子どもの追い詰められた気持ちを描いた絵本

痛い。心が痛い。  
胸がつぶれるほど、えぐられるほど、張り裂けそうになるくらい。  
この本を手にするたびに作者の「愛して」が聞こえてくるような気がする。

ねがいはい ひとつだけ  
わかることは ひとつだけ  
あいされたい。



# — 本 と 私 —

学生の皆さんにおすすめの本や読書観等をおしえていただきました。



## — 絵本の魅力 —

4年 高橋ゼミ 樋口丈城

私は、最近絵本を読む機会が多くなりました。最初は、実習で使うために絵本を選んでいたのが、だんだんと絵本の魅力にとりつかれてしまいました。

絵本の魅力は、短い物語のなかで、ひとつの世界が完結していることです。もちろん絵の力も大きいですが、絵だけを見るのどこが違うのかというと、短い文章があることによって、その世界がこちらに向かって開かれている印象を与える。

この印象を持つことによって、私たちは絵本を読むたびに、その世界に入れるのです。また同じ絵本でも、その時々の気分に応じて別の解釈や発見があったりと状況によって違った世界を感じることができる。

絵本には子どもにとってはもちろん、大人にだってたっぷり味わってほしいすばらしい世界がいっぱいあり、大人が読んでほっとしたり、優しさを思い出したり、絵本には忘れかけたものがたくさん詰まっているのです。



## — 今年の注目度No.1 —

4年 吉田ゼミ 町田由紀美

本は、私に様々なことを与えてくれる。それは、知識であったり、感情であったり、疑問であったり。そして、今年一番、私に多くのことを与えてくれたのは、伊坂作品だった。

それは推理小説なはずなのに、笑えるし、感動するし、妙に清々しい。2000年にデビューから、直木賞候補5回、本屋大賞過去4回全てノミネートと、注目度No.1の伊坂幸太郎。彼の作品の魅力の1つに、気軽さがあるのではないかと思います。予備知識が必要な程の難しさもなく、読みやすく、登場人物たちの会話は洒脱で笑えてしまう。しかし、

そんな中に大切なことが隠れている。深読みしなくて、ちゃんと分かるはずなのに、全然押し付けがましくない為、危うく見逃してしまうかもしれない。だから、読み終わった途端もう一度読みたくなるし、人に勧めたくなる。まだ伊坂作品に触れていない方、騙されたと思って、是非御一読を。因みに、伊坂作品の中から1冊だけ紹介するなら、『陽気なギャングが地球を回す』（祥伝社）だろう。何故って？だってこのタイトル、思わず手を出してしまいませんか？



## — 本を読みましょう —

3年 奥泉ゼミ 栗原梢

新聞やニュースでは、現代人の活字離れが叫ばれている。社会人になれば多忙の日々を送り読む時間がなくなってしまうが、自分を見つめ直し、知識を習得できる今の学生時代にたくさんの本を読まないともったいない。

私が本を読むようになったきっかけは、母の影響が強い。母が借りてきたサスペンス小説、恋愛小説を読むにつれて、日本語の美しさ、人の持つ感情、場面を空想する想像力が養われたと感じている。また、本一冊に登場人物の人生が綴られており、“そうゆう生き方もあるんだなあ”と感嘆

することがある。自分の一度きりしかない人生を本を読むことによって、客観的に学び取り、感情移入することによってあたかも自分がそこに実在しているような疑似体験を深く味わうことが出来るからだ。

様々な分野で活躍する福祉職は、相手の心を理解する力を身に付けるとともに、コミュニケーション能力を上げなくてはならない。“百聞は一見に如かず”という諺があるが、これからも図書館を利用し、本をたくさん読み、ボランティア活動に精を出していこうと思う。





## — いつかの記憶 —

3年 石橋ゼミ 稲垣雅久

私は特に本を読むという習慣もないし、本を読むことが好きなわけでもない。しかし、時間が空いた時、何もすることがない時には、図書館で本を読むこともある。私と本との関わりはその程度である。ほんのタイトルを見て、ドラマでやっていたから、何となくおもしろそうだからなどといった理不尽な理由で読むことはあるが、実際に借りて読むということはほとんどなく、もちろん個人的に買うということもない。唯一買った記憶がある本は、小学校の読

書感想文の課題の際に買った『少年探偵事件ノート』という小さな本である。今となっては、著者や出版社、家のどこにあるかも分からない。内容は、小学5年生程の少年が、身近な事件を解決していき、周囲では名の知れた少年となっていく、という本だった。小さな時の小さな記憶ではあるが、おもしろかった本は、いつまでも覚えていたものだと思う。皆さんも記憶に残る1冊を見つけてみてはいかがだろうか。



## — 星の王子様との出会い —

2年 奈良ゼミ 寺島亜祐美

初めて星の王子様を読んだのは、小学校五年生の頃でした。私は本を読むことの少ない子どもでした。この本を手にしたのは、表紙の絵が気に入ったことがきっかけでした。

どんな話なのかと、最初は少し読むくらい気持ちでした。それが自分でも気付かぬうちに、どんどんと本の世界にのめり込んでいったのです。周りの声はまったく耳に入りません。それほど夢中になりました。ただその時は、小学生だったので、この本が言いたいことや登場人物の気持ちを読み取れないことが間々ありました。それでもその時は、十分楽しんで読み終えました。

星の王子様との二回目の出会いは、高校三年生になってからでした。受験の合間に何か本を読もうと探していて、ふと本棚の星の王子様が目にとまりました。そこでわか

に小学生の時に読んだことを思い出し、高校生になった今読んだら、以前とはまた違った感じ方ができるかもしれないという期待が心に浮かびました。私は再びこの本を手取ることになったのです。

予感的の中しました。小学生の頃とは違う物語を読んでいるとさえ思いました。おそらく、本の言いたいことや登場人物の気持ちが自分なりに感得できて、以前より深く読むことができたからです。読み終えて、本から得たものを感じました。

名著とは、それを手に取り読む時々によって違う感じ方ができるものです。その中でも星の王子様は読みやすくできているので、あまり本を読まない人にもぜひ読んでいただきたい一冊です。



## — 絵本 —

1年 八幡ゼミ 小池由佳子

みなさんは、「本」と聞くと小説や詩集などをイメージすると思いますが、私は、「絵本」も素敵な本の一員だと思っています。「絵本は小さい子が読むものだろう」と思う方もいらっしゃると思いますが、絵本の中には私たちの年齢でも感動させられるもの、楽しめるもの、考えさせられるものなど、様々なものがあります。

私も今まで沢山とは言えませんが、そのような絵本に出会ってきました。その中で印象に残っている絵本は、「ちいさなくれよん」です。この絵本には、「物を大切にする」ということをテーマに、小さくなって捨てられてしまったクレヨンが、「ぼくにもまだ、何か出来ることがあるかもしれない」と外の世界に飛び出し、活躍していく姿があた

たく描かれています。「物を大切にしくちやいけない」ではなく、「していきたい」と思わせてくれる一冊です。

ところで、みなさんは本を手にしたとき、その内容をどのようにして知りますか？ほとんどの人が自分で読むと思いますが、実は、絵本はそれだけではないのです。

絵本には、人に聞かせてもらう、「読み聞かせ」という方法もあります。読み聞かせには、自分で読むのと違う楽しさ、そして感動があります。

みなさん、これをきっかけにぜひ、絵本を手にとって、友達同士で「読み聞かせ」をしてみるのもいかがでしょうか？





## — 福祉と出会った本 —

1年 鈴木(靖)ゼミ 深澤美穂

私には、福祉を知るきっかけとなった本があります。それは「お母さん、ぼくが生まれてごめんさない」という本です。脳性マヒによる重い障害と戦い、家族と共に壮絶な人生を送った「やっちゃん」という少年の話です。

この本では、昭和三十年から四十年代の福祉の状況を知ることができます。当時は、差別も偏見も残っていた時代でしたが、それにもかかわらず重度の障害を背負い懸命に、人間らしく生きようとしたやっちゃんとその家族にとっても心を打たれました。

この本が私に教えてくれたことは、「優しさが人の心を

育てる」ということです。やっちゃんは自分のことは何一つできないし、言葉を発することもできなかったけれど幸せな人生が送れたのは、周りの人の優しさに触れ十分に愛情を受けることができたからです。

優しさとは、どんなに重い障害があっても、育った環境が悪くても、与えられることによって必ず育つものだと思います。そしてやがては他人に与えることもできるのです。この本は私に福祉とはどのようなものかをリアルに教えてくれた大切な出会いとなりました。



## — 読書と漢字を読み書きする力 —

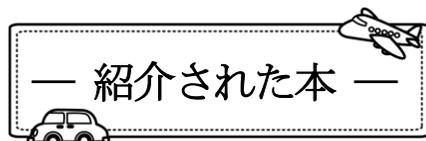
1年 片桐ゼミ 島野恵利

本を読むということは、必然的に漢字を読むということになります。そして本を沢山読むということは、漢字を読む力と書く力が身につくということです。

本屋や教科書に使われている漢字のほとんどは一般常識的な漢字（常用漢字）だと思います。本を沢山読むことで、それらの漢字が自然に読むことが出来るようになり、読めることで書くことが出来るようになります。漢字の読み書きが出来るということはレポートや日誌を書くことにも役立つし、パソコンで文章等を作成するときにも役立

つでしょう。

私は本を読むことは好きですが、全ジャンルが好きというわけではありません。ですが気になる本は読んでみて、気に入れば最後まで読んでしまいます。私は本を沢山読めば漢字を読み書きする力が身につくと思います。一番いいのは、沢山の色々な本を読むことですが、少数の本を繰り返し何度も読むことでも、漢字を読み書きする力はつくと思います。



- ★『少年探偵事件ノート』  
砂田弘／著（岩崎書店）
- ★『おかあさん、ぼくが生まれてごめんない』  
向野幾世／著（扶桑社）
- ★『星の王子さま』  
アントワーヌ・ド・サン＝テグジュペリ／著
- ★『陽気なギャングが地球を回す』  
伊坂幸太郎／著（祥伝社）



『ぐりとぐらシリーズ』『11ひきのねこシリーズ』『14ひきのシリーズ』『せなけいこ・おぼけえほん』『松谷みよ子・あかちゃんのえほん』等の絵本が図書館に入りました。ぜひこの機会に懐かしい絵本を読み返してみたいかでしょうか？



# — 図書館特集 —

## ★ 雑誌のタイトル数が大幅に増えました！

大学院の新設に伴い、平成19年度から雑誌のタイトル数を大幅に増やしました。調べ学習でリクエストが多かったものや、CiNii（サイニイ）でのヒット率が高かったものを中心に約50誌の雑誌を揃えました。過去1年分のバックナンバーや別冊・増刊号も揃えましたので、ぜひ活用してみてください。

新定期購読雑誌（和雑誌追加分）			
1	あそびと環境0・1・2	24	総合リハビリテーション
2	おはよう21	25	そだちの科学
3	介護福祉教育	26	治療
4	隔月刊 社会保障	27	賃金と社会保障
5	からだの科学	28	日経情報ストラテジー
6	切抜き速報 教育版	29	日経ビジネス
7	切抜き速報 社会科版（旧：社会科版）	30	日経メディカル
8	切抜き速報 食と生活版	31	ノーマライゼーション：障害者の福祉
9	季刊 社会保障研究	32	発達障害研究
10	教育ジャーナル	33	発達心理学研究
11	月刊 学校教育相談	34	判例タイムス
12	月刊 福祉環境	35	ふれあいケア：介護のプロへの応援誌
13	現代のエスプリ	36	プレジデント
14	行動科学	37	保育の友
15	季刊 公的扶助研究	38	訪問看護と介護
16	子どもの虐待とネグレクト	39	法律判例文献情報
17	作業療法	40	理学療法学
18	作業療法ジャーナル	41	理学療法ジャーナル
19	社会福祉学	42	リハビリテーション医学
20	社会保険旬報	43	りんくる（おはよう21別冊）
21	受験ジャーナル	44	臨床心理学
22	ジュリスト	45	老年社会科学
23	心理臨床学研究	46	老年精神医学雑誌

新定期購読雑誌（洋雑誌追加分）	
1	Ageing and Society
2	American Review of Public Administration
3	British Journal of Social Work
4	Cambridge Quarterly of Healthcare Ethics
5	International Journal of Social Welfare
6	Journal of Consulting & Clinical Psychology
7	Journal of Gerontological Social Work
8	Psychological Review
9	Public Administration

## ★ブックトークに来てみませんか？

ブックトーク(Book Talk)とは … 読み聞かせやストーリーテリング(Story Telling)に並ぶ読書活動の1つです。グループを対象に行うもので、1つのテーマについて数冊以上の本を様々な観点から紹介していきます。読み聞かせやペープサート等を折り混ぜつつ行う参加型のブックトークは、幼稚園や小学校に限らず施設でのコミュニケーションの1つとしても役立つスキルです。終わったあとに「今度あの本読んでみたいな」「こんな本もあるんだな」という新たな本との出会いを求めて、ブックトークに参加してみませんか？



— 開催日 —

2008年1月15日(火) … 成人の日の翌日です。

場所 : 図書館にて

時間 : 午後5時30分 ~ 午後7時 (7時10分発の市バスに間に合います！)

主催 : 図書館 / 学生図書委員会



## ★2006年11月21日より、図書館独自のHPが開設されました。

【図書館HPアドレス】 <http://www.shoken-gakuen.ac.jp/library/>

調べ学習に役立つお役立ちサイトや便利なデータベース、電子ジャーナルが沢山ありますので、ぜひ活用ください。フリーのデータベース等は、学外のPCからも利用できます！

### ★統計資料★

単位 / 冊

		総記	哲学	歴史	社会科学	自然科学	技術	産業	芸術	言語	文学	合計
蔵書数	新規	155	39	62	665	65	28	63	50	29	274	1,430
	総数	899	3,152	476	12,904	5,997	591	121	1,523	1,171	1,807	28,641
貸出冊数	学生	9	192	27	853	83	19	2	129	15	258	1,587
	全体	26	219	34	998	95	22	4	131	17	323	1,869



図書館報第14号をお届けします。

前号をお届けしてからちょうど1年。この間、図書館は大きく変わりました。

4月からの新システム導入に伴い、館内資料のデータベース作成に着手。学内ネットワークを整備していただき、所蔵資料の一部が検索可能となりました。図書館ボランティアとして資料の運び出しを手伝って下さった学生の皆さん、本当にありがとうございます。また図書館のHPの独立に伴い、サイト内のサービスも充実してきました。前号からはこの図書館報「昌賢だより」もpdf化し、Web上で公開されています。お役立ちサイトのほか、1月に行われるブックトークの試演会をはじめとする図書館のイベント情報も紹介されていますので、ぜひチェックしてみてください。

最後に、図書館報第14号の発行にあたり、お忙しい中原稿の執筆をしていただいた方々に、心より感謝申し上げます。